



PTA会長時の思い出

小さな町の小さな学校に、
大きな夢を

福島 正明

これは、当時の深小学校PTAの活動テーマでした。小規模学校の長所は、暖かく豊かな環境の中で、個々の個性や可能性が充分伸ばせる事と、それを取り巻く先生と保護者が、ゆとりの中で充分話し合い、一丸となって目標達成にむけて協力することでした。

毎月の役員会では、「一人ひとりの子どもの幸を」テーマに真摯な話し合いをしました。その役員会で確認した内容は概ね次のような内容でした。

(1)この自然の豊かな古里で育った事を誇りに思える町にしましょう。

(2)学校と地域が一体となって安全で、幸せな環境づくりを考えましょう。

(3)その為には、小さな町の小さな学校に、大きな夢を描ける土台をつくりましょう。

この三つのテーマが基本となりました。その頃、歩道等がないために、スエズ運河を通過し、地中海に入った頃より急に日本との時差が大きくなった様な気がしてきました。それは、毎日日本との通信を続けなければなりません。使用電波は短波(四〇五〇〇〇)の電波は日本が夜で、船の位置が夜でないと電波の反射波現象が起きないので、通信が出来ません。日本と地中海では時差が八時間あるので、地中海の日が暮れて、無線通信ができる様になった時間は、日本は最早真夜中になっていく訳です。

「近東伊太利航路」の思い出(5)

秋本 俊之

診し、船のドクターと合同で診察の結果、湿性肋膜炎とのことでしたので、上陸現地入院しました。入院生活も伊太利の病院なので、本人も片言の英会話なので、不自由な生活の様でした。私も数回見舞いに訪れましたが、不自由な生活を強いられた、痛々しく感じられた事が強く印象に残っています。

本船は、無線局長不在となつた訳で、私もまだ新米のホヤホヤなので、とても一人歩きはできない状態でした。

痛ましい交通事故が起きました。故が起りました。学校では安全学習をし、県に歩道設置要請書を提出し、土地所有者の方には、居宅訪問しご協力をお願いしました。

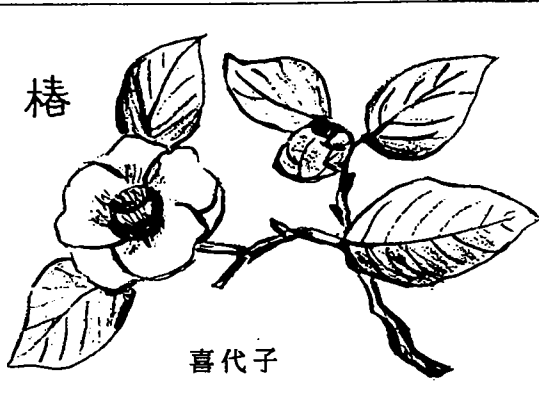
「はなみずきふれあいサロン」を開催して

金重 八重子

急速に進む高齢化と、少子化の中で、高齢者を社会全体で支えようと、介護保険制度が設けられ、いよいよ四月から実施されます。JAでも組合員と地域住民がお互いの力を合わせて、安心して老後を暮らせる地域づくりを目的として、JA三原高齢者助け合い活動組織が設立されました。(平成十年十月) その組織を「はなみずきの会」と名づけられました。現在深町では、協力会員として九名が登録されています。

この九名の者が、地域の高齢者の方に、長くなつた人生をいさかでも充実していただくお手伝いができればと、去る一月三十日に、深町民会館において、「はなみずきふれあいサロン」を開きました。町内在宅の七十五歳以上の方をお誘いしましたところ、二十一名のご参加を得ました。

はじめにJAの方から「はなみずきの会」の説明を聞き、自己紹介のあと、お楽しみ会をもちました。「ふるさと」を歌いながら簡単な動作をつけ、浦島太郎や箱根山を歌って気持ちのリラックスさせました。次に、広告用紙で菓子箱を作り、ティータムを取り、また広告用紙で『たのし木』を二本作り、青い山脈の曲に合わせて軽い体操をしました。紙を折ったり手でちぎったり、少し細かな手作業でしたが、みなさん童心にかえって、楽しくしかも真剣にやりました。それから昼食団欒。おしゃべりを楽しみながらゆっくり休憩をとった後、特性のミニボーリングをしました。余りにも盛り上がりすぎてもう一回した程です。「若いなあー」と嬉しく思ったものです。ゲームを楽しむので、競争ではなかったのですが、九十歳の最高齢者が最高得点でしたので、とっさにミカン二個を商品に「



丁度運良く同じ会社の函館丸が入港中でしたので、同船の次席通信士を、本船の局長に配置替えしてくれました。それより船の荷役は数日で終わりましたが、中々出港命令が出ないので、どうした事かと心配して居りました。ところが積荷の中に、ドイツ製の発電機が三〇〇〇T位あるとの事で、このまま出港すると、イギリイ海軍に途中の公海で拿捕没収される恐れがあるとのことで、その対策のため出港が遅れている由聞かされ、納得し乍ら待機すること四〇日の長期になりました。その間用事もないので、毎日街のブラブラ歩きには弱りました。

三月町内各種団体行事予定

- ◆小学校(幼)
 - ◆誕生会(幼) 三日
 - ◆マラソン大会 四日
 - ◆参観日 お別れ会(幼) 七日
 - ◆卒業式 一七日
 - ◆卒業式 二二日
 - ◆終了式(小・幼) 二四日
 - ◆子ども会 二六日
 - ◆お別れ会 二六日
- ◆消防団
 - ◆火災予防運動 中旬
- ◆女性会
 - ◆親睦会 上組 四日
 - 中組 二日
 - 下組 六日
- ◆上組町内会
 - ◆遊歩道整備作業 二二日
 - ◆親睦会(マラソン) 二六日
- ◆尚寿会
 - ◆学校との交流会 別掲

みよ勇者は帰りぬ」の曲を口ずさむ中、にわか表彰式を行いました。それから意見交換、記念撮影をして会を終了しました。不安の中で開いたふれあいサロンでしたが、みなさんに喜んでいただいたことで勇気づけられました。ご協力ありがとうございました。

展望席

いろいろな組織・団体から広報紙を頂きます。毎月配られる「市広報紙」をはじめ、読み応えのあるものばかりです。町内会紙や歴史探検団体紙といったボランティア組織からも頂きます。紙面構成術はよい刺激材料になります。

深の歴史余話(二十二)

深の物産(2)

高崎

壽郎

丹波黒大豆
現在、深町の特産品となつて
いる丹波黒大豆は、国が進めて
いる水田利用再編対策の対応と
して、昭和五六年(一九八一)
に、故成末豊氏が現地を訪れ、
栽培方法を習われこの地に導入
されたものである。
丹波黒大豆は、深の風土に合
うのか反別の収穫も多い。又、
従来の黒大豆に比べ、短時間に
煮え美味しいう上に高値に売れる
ので、生産も定着してきている。

里芋

深の里芋は味がよいことで近
郷に知られ、尾道の市場でも特
別高値で取り引きされていた。
深の里芋には、深芋と伊予芋
があった。
深芋は、子芋の数は少ないが
粒が大きくて円い。親芋や芋茎
(ずいき)も美味で、葉や茎は
や、白けた青色をしている。
伊予芋は、子芋の数は多く粒
はや、小さい。親芋と芋茎は美
味しくないので食べず、葉や茎
の色は青い。
現在は、純粋な深芋や伊予芋
はほとんどなく、今生産されて
いるの芋は伊予深である。
種芋を深以外の土地で栽培し
ても、同質のものではないとい
う。深の気候風土に最も適し
たものが深芋といえる。

疎開地を訪ねて(2)

西田 勝彦

完結篇

あの酷しい戦時下でも、山深
く水清らかなこの田園へ、大阪
の教育界も、そして親達も安心
して疎開先として送り出したの
でしょう。

当時八歳であったので、上級
生程全体を把握する認識力なく、
自分の身の廻りの不自由を過大
に感じたのが別稿の如くで、辛
かったことが多いのだが、その
体験が産業人となって以降も一
端の軍国少年として、戦中派の
如くずっと自分の支えになつて
いたことは否なめません。

それにしても、小生の思い出
の辛さと、村の方々の親切との
ギャップが中々埋まらぬのは、
幼い心への、戦争の苛酷さの故
でしょう。

豊かな自然の中、川遊びや、
手に余る鎌で稲を刈るお手伝い
をしたこと、たしか、みんな
勢子になつて兎狩りなど、村人
の皆さんから暖かい庇護があつ
たこと、勿論、食料支援など今
更に感謝の気持ち湧いて来ま
す。

都会児にとって、この半年足

西条柿
西条柿は、深でも
昔から生産してきた
ものであるが、量少
なく質も悪く、市場
でも売れ行きは芳しくなかつた。
明治三十七年(一九〇四)栗原
村より種無し西条柿(筋物)が移
入され、以降改良を重ねた。
そして、永年の精進のかいあ
って良質のものができ、価格も
在来種に比べ格段の差がついて
きた。

現在、西条柿を焼酎で脱渋し
たものを「酢(さわし)西条」
として、全国各地へ出荷販売し
ている。種子がほとんどなく、
快い舌ざわりと糖度の高い独特
の甘味に人気が高く、更に日持
ちもよく、生産、出荷は好調で
ある。
約八haの畑で栽培されている。

深特産 西条柿



船本 輝明

富有柿
明治三十八年(一九〇五)に苗
木を導入し栽培が始まり、次第
に増殖していった。
明治四十二年(一九〇九)この
柿を神戸市場に送ったが、まだ
世に知られざる果物で、売れ行
きも悪かった。
以後宣伝につとめ、三年目に

「新春ふれあい広場」では、
雨の降る中大変お世話になりま
した。地域のみなさんにはこの
日のために、竹を切ってもらっ
たり、すごく大きなたんぽろを組
み立ててもらったりしました。
どうもありがとうございました。
そうし
てみんな
が楽しみ
にしてい
た「新春
ふれあい広場」では、おもちつ
きも手伝ってくれましたね。力
強くおもちをつく姿や、おもち
をさささと丸める速さに、さす
が！と感心しました。
また、雨に負けないように、
とんどに火がつきやすいように、

「新春ふれあい広場」では、
雨の降る中大変お世話になりま
した。地域のみなさんにはこの
日のために、竹を切ってもらっ
たり、すごく大きなたんぽろを組
み立ててもらったりしました。
どうもありがとうございました。
そうし
てみんな
が楽しみ
にしてい
た「新春
ふれあい広場」では、おもちつ
きも手伝ってくれましたね。力
強くおもちをつく姿や、おもち
をさささと丸める速さに、さす
が！と感心しました。
また、雨に負けないように、
とんどに火がつきやすいように、

地域のみなさんへ

深小児童会 本部

とう油をいつもよりたくさんか
けていたいたおかげで、ふだ
ん見れないすいとんが見れ
て、とてもよい思い出になりま
した。
これからもたくさんお世話に
なりますが、よろしく願いま
す。
一月二六日

お断り

この札は一月に頂
きましたが、紙面の都合
で掲載できず申し訳
ありません。
お詫言います。
編集部

●春夏秋冬●

楳谷 マサヨ

雪の中他に魁けて水仙は

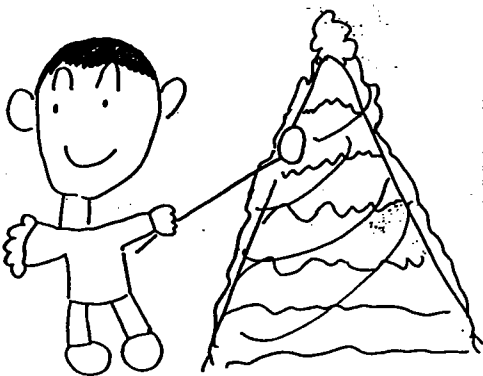
可憐な花を咲き始めたり

アヒルにはアヒルのルールあると見ゆ

長幼序列で 姿愛らし

幽明 境異なりて二十五回忌を迎う

想いは逝きし 息の齢なり



新春ふれあい広場 一年生

※訂正 先月号の第三頁「二十五年」の「回」が誤記して訂正して掲載します。